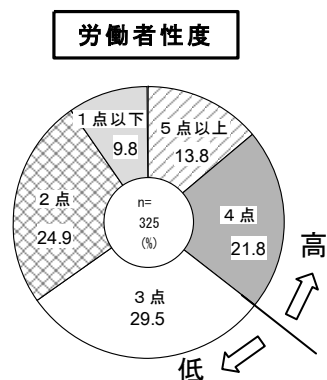


(9) 労働者性

労働者性については、「報酬を決める要素が時間に応じている」「業務場所が会社の指定した場所である」「毎日決まった時間に出社する必要がある」「仕事の進め方の裁量が限定されている」「あらかじめ決められた業務以外業務を行わせることがある」「仕事を断ることができない」「他者に業務を代行させることができない」の7項目にいくつ当てはまるか、でタイプ分けをしている。1つ当てはまるごとに1点を付与したところ、「5点以上」が全体の1割強(13.8%)、「4点」が2割(21.8%)で、これらを『労働者性(高)』とした。「3点」が最も多く約3割を占めている(29.5%)。



最も活用されている職種でみると『情報処理技術』において、「労働者性(高)」の割合が6割を超え、他の職種よりも高くなっている(60.9%)。次いで多いのは『講師・インストラクター』で4割強(43.5%)である。いずれの職種においても、3割前後は「労働者性(高)」となっている。

